

会員会社紹介

一般社団法人メディカル・イノベーション・コンソーシアム

業務執行理事
天羽 優太



一般社団法人メディカル・イノベーション・コンソーシアム（略称：MIC）は、人と地球に優しいメディカル・イノベーション製品の普及・進展を推し進め、かつ関連ビジネスの発展と健全化を図り、一人でも多くの命を守り、人類の幸せに貢献することをミッションとして、2013年に設立されました。これまでの活動として、弊コンソーシアムが中心的な役割の一旦を担い、ベンチャー企業から業界初の8K内視鏡カメラシステムを世の中に送り出した実績があります。この経験で学んだことは、新しい医療機器を開発するためには、医療機器メーカーだけでなく、企画の段階から医師や看護師、臨床工学技士などの医療サイドと、医療機器メーカーあるいは大学・研究機関の研究者・技術者など工学サイドとの共同作業が必須であり、さらに製品化までを考慮に入れば、マーケット調査、知財管理、薬事申請や営業開拓等を行うビジネスサイドの協力も必要不可欠だということです。そのため、弊コンソーシアムでは、各サイドと緊密かつ迅速な連携を取りつつ、医療現場・ユーザーの声を反映した製品開発を促進させることに取り組んでおります。

これからの時代、様々な技術革新により、医療業界でも大きなイノベーションが起こる機会が到来しています。そのキーワードは「8K×5G×AI」。すなわち、8K（超高精細画像）、5G（第5世代移動通信システム）、AI（人工知能）です。医療業界で使用する画像（静止画/動画を含む）は、ここ数年で急速に高精細化が進み8Kを実現できるようになりました。「目」に相当するこの技術が、8K（超高精細画像）に到達したことで、これまで見えなかったものが見える時代（2Kの16倍）となりました。また、「神経」に相当する情報の伝送技術は、5G（第5世代移動通信システム）世代を迎え、これまでの4Gに比べて約100倍（4G：100Mbps～1Gbpsから5G：最大100Gbpsへ）

の超高速伝送が可能となりました。それにより、情報を瞬時（10秒程度必要とした情報を0.1秒程度で）に伝送出来るだけでなくIoTの普及も伴い、様々な機器への同時接続も実現可能となります。そして、それらの情報を分析し、適切な解に導く「脳」に相当するのがAI（人工知能）技術です。これら3つのテクノロジーを兼ね備えた時代は、これまでにないレベルのイノベーションを医療業界に引き起こします。また、医療施設内（ローカルエリア内）により構築されたシステムが光回線等を通じて外の世界と繋がることにより、場所を問わず最新の診断や治療等を受けることが出来ます。これは、医療業界において課題とされている人材不足（医師や看護師等）や偏在（地域によって品質の偏差が生じること）を解決に導き、地域に関係なく、全国どこでも最先端の診断や治療等を受けられようになるとともに、医療関係者の働き方改革や患者のライフスタイルにも多大な影響を与えるものと期待されています。弊コンソーシアムでは、一般社団法人という属性を活かし、プロジェクトごとにチーム化した全ての関係者との共創を以って、今後もメディカル・イノベーション製品の普及・進展に貢献して参ります。問い合わせ先：office@micx.or.jp

